

社福振福二第 55 号
平成 29 年 7 月 7 日

都道府県
各 民生主管部（局）長 様
政令指定都市

公益財団法人 社会福祉振興・試験センター

理事長 根本 嘉昭



平成 29 年度第 3 回民間社会福祉施設特別養護老人ホーム介護職員
合宿研修会受講者の推薦について（依頼）

標記の合宿研修は、民間社会福祉施設職員の資質の向上を図ることを目的に、公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団の助成を受け、厚生労働省の後援により、昭和 48 年から毎年実施しているものであります。

平成 29 年度におきましても、別添「平成 29 年度第 3 回民間社会福祉施設職員合宿研修会実施要綱」のとおり実施することといたしましたので、ご多用の折誠に恐縮に存じますが、管下民間社会福祉施設の職員（中核市も含む）について、別添要綱による推薦書により、平成 29 年 8 月 18 日（金）までに（必着）受講者 1~2 名をご推薦いただきますようお願い申し上げます。

なお、推薦にあたっては本研修の趣旨に照らし、過去の状況も勘案のうえ、特定の施設に偏ることなく、出来るだけ多くの施設から推薦いただきますようお願い申し上げます。

また、書類の提出が上記期限に間に合わない場合、お手数ではございますが、電話・FAX・メール等で結構ですので、同期日までにご一報いただきたくよろしくお願い申し上げます。（なお、該当者がいる場合も大変恐縮ですが同様にお願いいたします）。

追って、ご推薦いただいた中から受講者を決定し、その旨貴職あてご通知申し上げます。

何卒よろしくお願い申し上げます。

担当 福祉第二部 高倉、井領（いりょう）

電話 03-3486-7511

F A X 03-3486-7514

住所 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-5-6

E-mail fukushidai2@sssc.or.jp

ホームページ <http://www.sssc.or.jp/>

平成 29 年 7 月 7 日

ご担当者様

平成 29 年度第 3 回民間社会福祉施設職員合宿研修会の
推薦依頼について（補足）

お世話になります。

本文書が、担当係ではない係に届いてしまった場合は、恐れ入りますがご担当者様にお渡しください。

当研修は、特別養護老人ホームの介護職員を対象に、毎年 7 月と 11 月に実施しており、今回は 11 月実施分（平成 29 年度_第 3 回）の推薦の依頼となります。

1~2 名のご推薦を依頼しておりますが、推薦者の合計が定員を超える場合、選考となります。そのため、複数名ご推薦いただける場合、恐れ入りますが、優先順位を付けたうえでご提出いただけすると幸いです。もし優先順位がない場合、当センターにて実施要綱（10.受講者の選考）に基づき、優先順位を付与させていただき選考させていただきますので、「優先順位なし」とご記載ください。

【推薦に際しご提出いただくもの】

1. 推薦書（別紙様式 1）
2. 事例検討（事前課題）（*1）

(*1) 「個別援助事例」（様式 1）または「集団活動事例」（様式 2）のどちらかを提出

提出期限：平成 29 年 8 月 18 日（金）必着

書類の提出が上記期限に間に合わない場合、お手数ではありますが、電話・FAX・メール等で、同期日までにご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

なお、推薦者がない場合も、その旨ご連絡くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

●受講者の決定について

推薦締切後 2 週間以内にご通知申し上げます。

●推薦書等の提出書類の電子データ（Word）について

推薦期間中（8 月 18 日まで）、当センターホームページ「国内合宿研修」ページに推薦書等様式（Word）を掲載致します。電子データが必要な場合、当センターホームページよりダウンロードしてください。

本研修の推薦依頼についてご不明な点等ありましたら、下記担当者までご連絡いただきますようよろしくお願ひいたします。

公益財団法人 社会福祉振興・試験センター
担 当 福祉第二部 高倉、井領（いりょう）
電 話 03-3486-7511
F A X 03-3486-7514
住 所 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-5-6
E-mail fukushidai2@sssc.or.jp
ホ-ムペ-ジ http://www.sssc.or.jp

平成 29 年度第 3 回民間社会福祉施設職員合宿研修会実施要綱

1 目 的

民間の特別養護老人ホームで入所者の処遇に従事している中堅職員に対し、必要な専門知識、技術を修得させるとともに、参加者相互の交流により、職員の資質の向上を図ることを目的とする。

- 2 主 催 公益財団法人 社会福祉振興・試験センター
〔公益財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団助成事業〕
- 3 後 援 厚生労働省
- 4 実施期間 平成 29 年 11 月 6 日（月）～11 月 9 日（木）までの 4 日間
- 5 研修会場 ホテルルポール麹町
東京都千代田区平河町 2-4-3 電話 03-3265-5361（代）
（交通）地下鉄有楽町線「麹町駅」下車 徒歩 3 分
(JR 山手線有楽町駅乗り換え)
- 6 宿泊場所 上記に同じ
- 7 受講者の資格
民間社会福祉施設（公設民営を含む）の特別養護老人ホームに勤務する介護職員で、次の各号のいずれにも該当する者とする。
(1) 社会福祉施設における業務経験が通算して 3 年以上で、かつ、当研修受講後も引き続き当該法人の施設に勤務する意志のある者
(2) 当研修に参加したことのない者
(3) 研修開催期間において、研修会場に宿泊できる者（2 人部屋または 3 人部屋）
- 8 受講定員 70 人
- 9 受講希望者の推薦
受講希望者にかかる都道府県・指定都市の推薦は、「平成 29 年度第 3 回民間社会福祉施設職員合宿研修会受講者推薦書」（別紙様式 1）の提出によるものとする。

1 0 受講者の選考

次の選考基準により受講者を選考する。

【選考基準】

(1) 都道府県・政令指定都市の推薦者のうち各 1 名

ただし、推薦のあった都道府県・政令指定都市の優先順位 1 位の推薦者の合計が定員を超える場合は、基準の（3）以降により選考する。

(2) 都道府県・政令指定都市の推薦者のうち優先順位 2 位の者を、基準の（3）以降により選考する。（優先順位 3 位以下の者も同様に選考する）

(3) 当研修に参加したことのない社会福祉施設の者

(4) 利用者人数の多い社会福祉施設の者

(5) 社会福祉施設における業務経験の長い者

1 1 研修費用等

研修にかかる研修費（含むテキスト代）、旅費、宿泊費、食費は当センターが負担する。

(1) 旅 費

当センターの旅費規程に基づいた金額を指定の口座へ振込むものとする。

※受講者自宅所在の最寄り駅から研修会場までの実費（領収書の提出）

(2) 宿泊費

研修期間内の宿泊は、当センターが手配する。

(3) 食 費

研修初日の懇談会費及び研修 2 日目から 4 日目までの朝食及び昼食は、当センターが手配する。

1 2 研修内容

研修科目及び時間（予定）

科 目	時 間	科 目	時 間
老人福祉行政の動向	1.5	認知症高齢者の心理とケア	4.0
事例検討の進め方	1.5	高齢者の病気の予防と介護	1.5
生活支援技術と介護演習	3.0	介護記録の重要性	1.5
事例検討	4.0	リスクマネジメント	1.5
ユニットケア	3.0	9科目	21.5

1 3 課題事例の提出

(1) 受講希望者は、「事例検討」の題材として、入所者処遇について次の①《個別援助事例》または②《集団活動事例》のいずれか一方を作成し、推薦書と同時に提出すること。

①《個別援助事例》は、現在課題がある事例について、「事例検討」様式 1 により作成すること。

②《集団活動事例》は、現在活動中の事例または完了した活動事例について、「事例検討」様式 2 により作成すること。

(2) 提出された受講者の課題事例は、全員分の資料としてとりまとめ、事前に配付する。

1.4 受講者の携行品

- (1) 印鑑
- (2) ノート、筆記用具
- (3) 健康保険証
- (4) スポーツウェア、スニーカーの類
- (5) 施設パンフレット・名刺等

1.5 レポートの提出

- (1) レポートのテーマは、研修期間中に提示すること。
- (2) 受講者は、研修終了後、当センターが指定する期日までにレポートを提出すること。
- (3) 提出されたレポートは、報告書としてまとめ、関係機関に配付する。なお、併せて、公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団のホームページに掲載するものとする。

別紙様式1

平成29年度 第3回民間社会福祉施設職員合宿研修会受講者推薦書

標記 民間社会福祉施設職員合宿研修会の受講希望者を実施要綱に基づき
次の通り推薦いたします。

顔写真
(胸から上の顔写真)
縦4.5cm×横3.5cm
(パスポートサイズ)
※この写真是研修報告書の
写真として使用します。

ふりがな 受講希望者 氏名		性別	男 ・ 女	生年 月日	昭和 平成	年　月　日	年齢	歳
ふりがな 所属法人名		ふりがな 所属施設名						
ふりがな 法人代表者 氏名		ふりがな 施設長名					施設 定員	
施設の所在地	〒 -	施設の 電話番号		市外局番				
受講者 自宅住所	〒 -	受講者 自宅最寄駅		※JRまたは私鉄駅				
職種又は役職名 (例)介護主任 介護職員 ユニットリーダー		社会福祉施設 通算経験年数(3年以上のもの)			年 ケ月			
		うち特別養護老人ホームでの経験年数(他の法人の特養での年数も含む)			年 ケ月			
学歴等 最終学歴 福祉関係資格 他施設種類・ 職種の経歴								
資格の有無	介護福祉士		社会福祉士		精神保健福祉士			
	有・無		有・無		有・無			

平成29年 月 日

都・道
府・県
市 _____ 部(局)長

主管課 _____ 担当者氏名 _____

電話番号 _____ (内線) _____

公益財団法人 社会福祉振興・試験センター

理事長 根本嘉昭様

(注意)ここに記載の個人情報は、公益財団法人社会福祉振興・試験センターが行う事業に使用するものであり、第三者に提供することはありません。

※ 年齢、経験年数は、研修初日現在(平成29年11月6日)を基準に記載してください。

様式 1

事前課題：「事例検討」【個別援助事例】について

- 研修を受講するに際し本事前課題を提出願います。
- 検討して欲しい・相談したい事例を具体的に記載願います。
- 事前課題の留意事項は以下のとおりです。
 - ①事例検討にかかる記載内容は以下の項目を記載願います。
 - ②提出フォーム:A4版用紙(縦)、横書き(字数40字×30行×1枚以内)にて記載願います。
 - ③添付フォーム(様式1:フォーム)を使用してください。
 - ④文体は、常体('…だ。…である。')にしてください。
- 記載内容の項目*****

1. 個別援助事例

- ①都道府県・市名:*****県(*****市)
- ②施設名:*****苑
- ③職種名:
- ④受講者氏名:

2. 事例検討 「題名」(事例の内容がわかるように工夫すること)

3. この事例を取り上げた理由・動機

4. 事例の概要 (※利用者個人が特定できないように配慮すること)

(1) 氏名・性別・年齢	(例)A 氏・男性・昭和3年生まれ(89歳)
(2) 入所期間	○年○か月
(3) 現在の傷病名	
(4) 要介護度・自立度・ADL/IADL	
(6) 家族状況・関係	
(7) 生活歴	
(8) これまでの経過	(これまでの状況や支援、現状など)

5. 相談したいこと・検討して欲しいこと(箇条書きで最大3点まで)

- ①
- ②
- ③

様式1

【記載事例】

1. 個別援助事例

東京都 シブヤ苑 介護主任 福祉 花子

2. 事例検討

「昼夜が逆転してしまった認知症のある男性高齢者への支援」

3. この事例を取り上げた理由・動機

当初は大きな問題がなかった A 氏がある時期を境に昼夜逆転となり、昼間は転倒の危険、夜は苑内を歩き回るので、スタッフ一同、苦慮している。思い当たる方法を試したもの、奏功しないので、少しでもよいケアのアイデアや意見をもらいたいと思い事例を提出した。

4. 事例の概要（※利用者個人が特定できないように配慮すること）

氏名・性別	A 氏 ・ 男性	生年	昭和 3 年生まれ(89 歳)
入所期間	3 年 6 ヶ月	現在の傷病名	・アルツハイマー型認知症・高血圧 ・膝関節症
要介護度	4	自立度・ADL/IADL	認知症Ⅳ 障害 A2 車椅子自走可 食事は自立

家族状況・関係

車で 1 時間ほどのところに次男夫婦在住。3 ヶ月に 1 度程度来苑。長男は海外在住しており長女は独身で隣県に住むが、仕事が多忙なためほとんど来苑しない。A 氏自身は、長男を頼りにしている。

生活歴

73 歳まで会社員として働く。82 歳のとき…(中略)…妻を 84 歳で亡くした頃より物忘れ出現。85 歳のときにアルツハイマーと診断される。長男の妻が通いで面倒をみてきたが、86 歳の時に入所となる。

これまでの経過(これまでの状況や支援、現状など)

入所後 1 年は特に大きな問題もなく過ごしていたが、入所 1 年を過ぎた平成 27 年 4 月頃より、「眠れない」と訴えることが増え、睡眠薬処方される。しかし、徐々に昼夜逆転が始まり、昼間はぼんやり過ごし、消灯時間になると苑内を歩き回ったり、他の入居者の居室で迷子になったりするようになった。

日中に運動量を増やしたり、安眠のため本人の好きな音楽をかけたり…(中略)…しかし、今のところ大きな改善がなく、現在も夜間の対応に苦慮している。

5. 相談したいこと・検討して欲しいこと（箇条書きで最大3点まで）

- ① 昼夜逆転の改善のために、どのような取り組み(個別支援)をしたらよいか。
- ② 昼間、ぼんやりした状態のため転倒の危険があり、どのようにしてリスクを最小限にできるか。
- ③ 利用者家族への情報提供や協力支援をどのように取り付けたらよいか。

様式 1

【様式1：フォーム】

1. 個別援助事例**2. 事例検討****3. この事例を取り上げた理由・動機****4. 事例の概要（※利用者個人が特定できないように配慮すること）**

氏名・性別			生年	昭和 年生まれ(歳)
入所期間			現在の傷病名	
要介護度		自立度・ADL/IADL		
家族状況・関係				
生活歴				
これまでの経過(これまでの状況や支援、現状など)				

5. 相談したいこと・検討して欲しいこと（箇条書きで最大3点まで）

- ①
- ②
- ③

様式 2

事前課題：「事例検討」【集団活動事例】について

- 研修を受講するに際し本事前課題の提出願います。
- 苦労したことや工夫した事例を具体的に記載願います。
- 事前課題の留意事項は以下のとおりです。

- ①事例検討にかかる記載内容は以下の項目を記載願います。
- ②提出フォーム:A4版用紙(縦)、横書き(字数40字×30行×1枚以内)にて記載願います。
- ③添付フォーム(様式2:フォーム)を使用してください。
- ④文体は、常体('…だ。…である。')にしてください。

- 記載内容の項目*****

1. 集団活動事例

- ①都道府県・市名:*****県(*****市)
- ②施設名:*****苑
- ③職種名:
- ④受講者氏名:

2. 事例検討 「題名」(事例の内容がわかるように工夫すること)

3. この活動を取り上げた理由・動機

4. 活動の概要

(1) 活動名称	
(2) 活動単位	
(3) 活動の目的	
(4) 発表者の活動への参加状況	
(5) 活動が開始されるまでの背景	
(6) 前期の状況	(問題点やその解決方法、工夫した点等)
(7) 後期(今まで)の状況	
(8) 活動の成果・効果	(できるだけ客観的に)
(9) 今後の方針性・課題・目標	

5. 全体を通じて苦労したこと・工夫したこと

様式 2

【記載事例】

1. 集団活動事例

大阪府 振興ホーム ユニットリーダー 福祉 花子

2. 事例検討

「施設交換研修による職場環境改善の取り組み」

3. この活動を取り上げた理由・動機

当施設を運営する法人は、複数の特別養護老人ホームを運営している。そこで管理者が人材育成の一環として、職員が施設を相互に交換してみることで、自分の施設の良い点や悪い点を客観的に理解できるのではないかと、施設交換研修を企画した。実際に自分も体験し、学んだことが多かったので報告する。

4. 活動の概要

活動名称	法人内の施設交換研修	活動単位	同一法人内の2つの特養			
活動の目的	自施設の課題と良い点を発見すること					
発表者の活動への参加状況	実際に施設交換に 6 日間参加					
活動が開始されるまでの背景						
施設長が「介護のマンネリ化を防ぐことができたら」と施設間の職員交換の研修を企画し、法人内で実施されることになった。						
前期の状況(問題点やその解決方法、工夫した点など)						
平成 26 年 10 月より最初に職員 1 名を交換。1 日の業務を行う際に、職員 1 名がついて業務説明とコミュニケーションをとった。当初戸惑いはあったが、2 施設合同の中間カンファレンスを実施し、不安点や疑問点、情報のすり合わせを行うことで円滑なコミュニケーションが可能になった。						
後期(現在まで)の状況						
1か月に1名の交換を現在も継続。新たに研修前後で、目的や成果を共有するために、シート(資料参考)を作成し情報共有を図っている。						
活動の成果・効果(できるだけ客観的に)						
緊急時に施設間でヘルプ職員を派遣してもらう際のコミュニケーションが円滑になり、業務引き継ぎに時間がかかるなくなった。						
今後の方向性・課題・目標						
学んだことをどのように共有するかが課題。参加した職員の中には、先方施設の悪いところだけに着目してしまう人もいる。参加した職員に有意義な研修となるような仕組みが必要。また、実施の目的をもっと明確にして取り組みたい。						

5. 全体を通じて苦労したこと・工夫したこと

自分が参加したときには、できるだけ「学びを得たい」と思って、介護方法の違いも、その理由などを積極的に考えて業務にあたった。しかし、他の職員は先方施設の悪い点ばかり列挙し「だから自分たちの介護がよい」と結論してしまう人もおり、活動全体としてうまく進めることの難しさを感じた。

様式 2

【様式 2：フォーム】

1. 集団活動事例

2. 事例検討

3. この事例を取り上げた理由・動機

4. 活動の概要

活動名称		活動単位	
活動の目的			
発表者の活動への参加状況			
活動が開始されるまでの背景			
前期の状況(問題点やその解決方法、工夫した点など)			
後期(現在まで)の状況			
活動の成果・効果(できるだけ客観的に)			
今後の方向性・課題・目標			

5. 全体を通じて苦労したこと・工夫したこと